

# 森 里山みらい報

〈第4号〉

この森を育み、この森と生きる。  
**角間里山みらい**  
特定非営利活動法人  
〒920-1301 金沢市角間77 電話 FAX076-256-5330  
E-mail: info@satoyamamirai.jp http://satoyamamirai.jp/

角間里山みらい 検索



## 誇りに思えるキャンパス環境を 自然にならせた適木選定と植樹

金沢大学キャンパス環境整備の会 幹事 森 茂

私達の会は、金沢大学角間キャンパスの緑化、整備推進に貢献することを目的として2009年に発足したボランティア組織で、金沢大学教職員OB有志が会員です。年々平均年齢は高くなり、常時活動しているメンバーも現在12名程ですが、無理なく安全に配慮しつつ、息の長い活動を心掛けています。具体的には、5月から10月末頃まで、ほぼ週に1回、午前中に草刈りを中心とした活動を行っています。

対象としているのは、里山としての保存地域と建物との間にある道路沿いの空き地や法(のり)面で、特に苗木を植樹した後の手入れに力を入れています。大学が法面緑化に取り組み始めた当初は、宮脇方式を採用し常緑広葉樹を密植していましたが、現在は、種々の落葉広葉樹を交えて50cm程度の幼木を密に植えています。

角間ではクズの勢力が強く、苗木が覆われて枯死しないよう、クズ蔓(つる)の切除も重要です。当初に植えた常緑樹は高さ5m近く、太さも腕程に成長しましたが、雪による幹折れや倒伏が目立ちます。自然再生に倣(なら)った樹種や適木の選定、植樹が必要であろうと感じさせられます。

学生諸君や教職員が市民と共に快適に過ごせ、誇りに思えるようなキャンパス環境を創り出すため、NPO法人角間里山みらいや森づくり活動の諸団体と連携して活動を続けていきますので、よろしくご協力致します。

## 木漏れ日

樹木の花のつぼみが、ちらほら見えて、春がそこまで来ているなと感ずるようになりました。しかし、今年の冬はとて寒い日が続き、まだ暖房がかかせないです。お恥すかしい話、里山保全や環境教育をライフワークにしている私ですが、我が家は石油ストーブ一台と電気コタツ一台です。これに電気が少ないので、省エネにはなっていないのですが、妻はダウンウエアを着て、首にマフラーを巻いて、白い息の

## 我が家のストーブ

出るなかで夕食を作っています。毎年秋に二人で話すことは、「森林に開いているのだから、薪(まき)ストープかペレットストープにしたらいよね」と。ああだ、こうだと、いつもとり留めなく話していました。そこに娘が「世界に灯油がなくならないように自分ができることは、何もしないで反省。たたいま、薪ストーブ検討中です。」(K.H)

「角間里山みらいの連絡団体/角間の里山みらい、山間の村、いしかわ里山保全活動センター/会、カメロ、製紙の会、里山サークル、M.A.C.O.N、金沢大学アカペラサークル、M.E.M.E、協賛/金沢森林組合、金沢市林業振興協議会、石川県ウオーキング協会、後援/石川県、金沢市、北國新聞社、北陸放送、テレビ金沢」

## 荒廃竹林に明るい光 里山17ヘクタールを整備

里山林の整備のため、NPO法人角間里山みらいは、今年度も金沢森林組合などと協力して作業をおこないました。対象としたのは、竹林整備(6.8ha)および約10haにおよぶ草刈りと危険木の伐採です。



荒れた竹林を伐採

竹林では、前年の伐採後には、切ってきた若竹を切って、広葉樹に更新する作業をしました。同時にタケノコ収穫のための間伐もおこないました。前者の場所ではコナラやタラノキがはえてきて、ゆっくりですが、荒廃竹林の植生に変化がみられます。また、整然とした感じになった後者では、来年はタケノコ掘りが期待できそうです。



ネーチャーゲームを楽しむ=金大角間キャンパス

## 留学生の飲食ブースも

はじめに山崎光悦学長が「光がはいる生き生きとした森を学内にふやしたい」とあいさつ。二日目は、学長を先頭に学内の有志約五十人が、里山の草刈りにとりくみました。また、キャンパスの里山をめぐる「四季の森 歩育楽校」には、三十組ちかくの親子が参加しました。会場には「里山カフェ」も設けられたほか、角間農園

## 角間里山みらいにぎわい

第四回角間里山まつり(金沢大学角間里山本部、歩育推進ネットワークいしかわ実行委員会共催)は、昨年十一月二、三日に金大角間キャンパスでひらかれ、家族づれが里山のめぐみに親しみました。金大祭にあわせての開催で、留学生の飲食ブースなど学生の出店が三つに増え、アカペラサークルも出演しました。

講演する辻さん=1月24日



## 地域再生 5つのおきて

- \*手間をかける。てっとり早いものはない。
- \*暮らしの文化を維持する努力を。
- \*人を育てる。
- \*金太郎飴よりご当地グルメ。
- \*1000人の観光客より100人のファン。

「山村」教育「NPO」をシリーズ五回目のテーマは「限界集落から始まる教育改革」。長野県泰阜(やすおか)村で「山村留学」を手がける辻英之さんが、「村の力、子供の力を信じて」続けて二十数年の取り組みを紹介し、地域再生の目的のつけどころを示しました。

## 「限界集落」で 改革の営み

### 地域に学び 教育で立つ

## 何のための山村留学

「地域でこそ学べることを」および「教育で立つ村をめざす」活動の結果、最近ではUターンがふえて村の青年団が復活し、宿泊や野菜栽培などの間接雇用などが増え、村外にファンが増え

## シリーズ「達人から学ぶ」

森や里山をおもなテーマとしたシリーズ「達人から学ぶ」は、今年度五回の講座を金沢大学記念館「角間の里」などで開きました。毎回、公募による約三十、四十人が県内外から参加、各地の取り組みを、達人からまなびました。(本シリーズは日本財団の助成を受けて、二〇一五年度もひらく予定です)



講演する佐々木さん=12月13日

## いざ、という時の「体験教育」 木質エネルギーで地域を開く

シリーズ四回目のテーマは「森と暮らしの新たなつながり」。

講師の佐々木豊志さんは、テレビ局などのサラリーマンを経て、私費で栗原市に自然学校を設立。「覚える」ことを求める教科教育より、「考える」ことに重きをおく体験教育、冒険教育にとりこんでいます。子供や若者が、自分で課題を見つけ、生きる力をつけてもらうため、不登

たなどとはなりました。辻さんによると、自治体の合併で、全国百二十地域の山村留学は八十地域に減少しました。「学びの政策」による留学でなく、クラスの生徒数確保に重きをおいた地域では、ホテルのような施設での「山の中で都会くら」のような「移民政策」はサ

ビス合戦のはてに、交流すらうまれず、地元には「なんのために山村留学だったのか」という徒勞感しか残らないところもあると述べました。辻英之 1970年福井県うまね、NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター代表理事。著書に「奇跡のむら」の物語、1000人の子どもの限界集落を救う(農文館)。

## 日本人の森の思想 森に培われた暮らし

シリーズ三回目のテーマは「森と人との関わり」。これまでとこれからは、講師の川尻秀樹さんは、テーマに即して、「古代の日本のこと」から「イラクでは水はガソリンより圧倒的に高価ということ」まで、古今東西の話をもりだくさんに紹介しました。

植物としての概説にとどまらず、葉は、花は、樹皮はいつ剥(は)ぐか、味は、売るといくらになるかなど、参加者につきない話題を披露しました。川尻秀樹 岐阜県立森林文化アカデミー教授。著書に「読む(種物図鑑)(全林協)」「森の案内人」(岐阜新聞社)など。

地域暖房などの導入にあてられれば、地域社会はよほどよくなる」と、発想の転換をうったえました。会場には、長野県神城断層地震の被災地からかけつけた参加者もいて、「地域で一番大切なのは共生すること

ということ。地震のあとにこれを改めて知った」とかたりました。佐々木豊志 宮城県一般社団法人くりこま高原自然学校代表理事。東日本大震災などを経て、震災復興や地域振興の課題解決策にも取り組んでいる。



野外講座の川尻さん=9月21日

小元から金沢市街方面をのぞむ



林の紅葉のなかを歩み、トレイルの面白さをお楽しみしました。一日目は医王の里、白瓦

# 四季の里山でトレイル満喫

を分ける道である「浅野みくまりの道」もあゆみまし

## 「さあ、歩こう！ 冬の金沢トレイル」

(2月8日)

キゴ山、医王山の白瓦山の約十キロで実施。約三十人が雪の深いところではカ

世界基準の標柱も 金沢トレイル連携協議会

## 会員募集のお願い

角間里山みらいは、大学、企業、行政、地域の皆様と連携して里山の保全を目指しています。

- 【年会費】期間：4月1日～翌年3月31日
●正会員・個人会員 1口5,000円 団体会員 1口20,000円
●賛助会員・個人会員 1口3,000円 団体会員 1口10,000円

【ご寄付のお願い】 当法人の取り組みを理解していただける皆様に、活動の一層の充実のため、ご寄付を募っております。

「さあ、歩こう！ 秋の金沢トレイル」 (昨年10月25、26日)

「さあ、歩こう！ 深秋の金沢トレイル」 (昨年11月16日)

雪山の感触をたのしむ スノーシューの体験会も

## 冬の森で親子が 動植物しらべ



冬を歩くと動物たちの痕跡をさがし、雪の中の植物を観察してみる「冬の森で遊ぼう」(角間の里)

シャクヤクの苗を植える飲をどとのえる



五月下旬に花をつけるポタン科のシャクヤク

漢方薬などの原料は、八割以上が中国から輸入して

石川県での薬草栽培面積は、富山、福井両県のわず

金大生が薬膳料理の商品化を研究

くりや、正月の屠蘇(とそ)にもちいる陳皮づくりに取り組み

## 里山で「アルプの森づくり」 4年後へシャクヤクを植える

「(株)アルプ」(本社・金沢市)が、地域貢献の一環として

イカリソウ移植も 五月下旬に花をつけるポタン科のシャクヤク

金沢大学角間キャンパスの薬用植物園は、ひろびろとした栽培圃

石川の風土にあった種を

## Woody Library 3図書館で「木のぬくもり」



「木育」についての話を聞く=玉川こども図書館 &木工ワークショップには、それぞれ二百人をこえる親子ら